
LOVE YOU

黒沢 れな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

LOVE YOU

【Nコード】

N17020

【作者名】

黒沢 れな

【あらすじ】

カラオケで元彼とばったり。

(前書き)

男性同士のカップル、俗に言うボーイズラブ小説です。

ボーイズラブに偏見がある、ボーイズラブが苦手、という方は
ブラウザバックをお願い致します。

大丈夫、どんとこい、という方のみドウゾ。

カラオケに行ったら、隣の部屋が知り合いだった——なんて、無
いようによくある話。

「———よお。」

同じタイミングで隣の部屋から出てきたそいつが、どこかぎこちな
く、そんな声を発した。

「……ああ、…」

俺も、ぎこちない笑みを返す。

男二人で、トイレへと向かって並んで歩き出す。

：何か嫌な構図だなあ。多分、お互いそう思いながら。

ちなみに、俺は特にトイレに用事がある訳でもない。

なんだか居心地が悪くて部屋の外に出ただけ。どうにも、あの空間
には溶け込めなくて。

苦手なだけで、嫌いな訳ではないけれども…やっぱり、女と“恋愛”はできそうに無い。

そういう自分が、今の俺は嫌いで、憂鬱になる。

「…彼女とデート？」

何でもない風を装って、俺はそう尋ねる。

彼女が出来たと…そんな話を、うわさで聞いたから。多分、そうなのだろう。

「…ああ……。そっちは、コンパ？」

「…まあ、…そんなトコ」

どうもお互いぎこちない。…けれど、それも仕方が無い事かな、と思う。

一週間程前まで、俺とこいつは付き合っていたのだから。

告ったのはこいつ。

——…でも、本当は告られる前から好きだった。

フったのは俺。

——…だって、このまま付き合ってたら人生の大事なレール踏み外させる事に気付いたから。

今なら、まだ引き返せると。

俺の所為でこいつの人生台無しにしたくないじゃん？ 俺がそれに相当する何かを返せるとも思えないし。

「…どう？ 彼女とは、うまくいってる？」

「あー…まあ。 …そこそこ。 ……そっちはコンパどう？ 可愛い子居た？」

「ああ、——うん、まあ。 …そこそこ」

基本的に俺は女というモノが苦手なのだが、男探しをしている女は何よりも苦手だった。

そんなんで、コンパが楽しめる訳が無い。

「……そ、つかあ。……」

「……………」

沈黙が、ものすごく気まずい。

何か話題、と俺が考えていると、先に向こうが口を開いた。

「……なあ、…明日ヒマ？」

「…ヒマ、だけど……何で？」

「……いや、…うん、ちょっと」

「…そっちはデートじゃないの？」

「いや、そうなんだけどさ……」

じゃあちゃんとデートに行けよ。笑って、背中を叩いてやる。

「うらやましいなあー。俺も、早く彼女つくらないと」

「……………」

“彼女と別れた”

そんな告白を聞かされたのは後日の話し。

“俺は、やっぱりおまえと付き合いたい。”　そう言われて。

“おまえじゃないとダメなんだ”　——そう全身で訴えてくるあい
つに、俺は諦めろと言葉で返す。

けれど。

色々だだをこねるように抵抗する俺が折れるのは――…多分、
時
間の問題。

20080207―20080207 inカラオケ（笑）

(後書き)

稚拙な文章に最後までお付き合い下さいまして有難うございました

＊――＊

感想等頂けると喜びます(＊、△、＊)↑

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1702o/>

LOVE YOU

2010年10月12日05時04分発行